

用語説明

あ行

・ 足関節上腕血圧比 (ABI)

下肢の動脈の狭窄や閉塞の程度を調べる検査。足関節（足首）と上腕（二の腕）の血圧を測りその比率を計算する。狭窄や閉塞が進んでいるほど比率は小さくなる。

・ 悪性新生物

がんのこと。肉腫やリンパ腫も含まれる

・ インスリン

ブドウ糖の細胞内への取り込みや貯蔵などを行い、血糖値を下げるホルモン。

・ インスリン作用

インスリンが身体で代謝・調節する機能を発揮すること。

・ インスリン抵抗性

血中のインスリン濃度に見合ったインスリン作用が得られない状態。

・ インスリン分泌低下

血糖値上昇に見合う量のインスリンが分泌されなかったり、分泌が遅れたりする状態

か行

・ 虚血性心疾患

狭心症・心筋梗塞のこと。心臓自体に酸素や栄養を運ぶ冠動脈の血管障害により、心臓の筋肉への血流が阻害され、心臓に障害が起こる疾患の総称。

・ 頸動脈 IMT (内膜中膜複合体厚)

総頸動脈（心臓から脳につながる頸部の動脈）の血管の壁（内膜・中膜・外膜）のうち、内膜と中膜を併せた厚さが肥厚している状態。動脈硬化の指標となるもの。

・ 頸動脈エコー

超音波により頸動脈の壁の厚みやプラーク（脂質の塊）の有無や血流等を調べる検査。頸動脈の血管で動脈硬化を起こしていると脳梗塞を発症するリスクがある。

・ 血管内皮障害

内臓脂肪の蓄積や血液内の LDL コレステロールの増加、高血糖状態、血圧上昇、尿酸の増加などにより、血管内皮細胞（血管の内側の壁）が傷つけられ、臓器としての血管の機能に障害が出た状態。

・ 血管不全

血管内皮・血管平滑筋ならびに血管代謝の機能低下を血管不全と総称する。

・ 健康格差

地域や社会経済状況の違いによる集団・個人における健康状態の差。

・ 国保データベース（KDB）システム

国民健康保険団体連合会が管理する情報を利活用した統計情報。保険者が行う保健事業の実施をサポートすることを目的に構築されたシステムで、「特定健診・特定保健指導」、「医療」、「介護保険」等に係る情報を利用している。

さ行

・ 脂質異常症

血液中に含まれる脂質が過剰、または不足している状態。「高脂血症」から改名された。

・ ジェネリック医薬品

先発医薬品（新薬）の特許期間などが過ぎた後に発売される。先発医薬品と同じ有効性・安全性であることを条件に国から承認された後発医薬品。

・ 受診率

被保険者 100 人当たりの年間受診件数を示す指標。

$$(\text{医科入院} \cdot \text{外来} \cdot \text{調剤のレセプト件数} \div \text{被保険者数}) \times 100$$

例えば 1,000% であれば、被保険者 100 人当たり年間 1,000 件受診しているという意味。

・ 心血管疾患

虚血性心疾患、脳血管疾患、末梢血管障害等のいずれかもしくは複合的なものを心血管疾患と総称する。

・ 心原性脳塞栓（症）

心臓にできた血栓が脳の血管までに到達し、詰まることで脳に障害が起きる病気。

・ 人工透析

腎臓の機能が低下した人に対し、血液中の老廃物を濾過して取り除き、血液の浄化を行う療法。

・ 心臓足首血管指数（CAVI）

動脈のしなやかさ・硬さを定量的に示す指標。足関節（足首）と上腕の血圧を測り脈波と血圧を測定する。

・ 心房細動

不整脈の一種。心房がけいれんを起こしたように細かく波打った状態。それにより心房に血栓ができやすくなり、血栓が脳に飛び、脳の血管が詰まるリスクが高まる病気。

・ 腎不全

腎臓の機能が低下して正常に働かなくなった状態をいう。

・ 生活習慣病

「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群」のことをいう。

本計画で使用する「生活習慣病」は、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、脳血管疾患、虚血性心疾患、慢性腎不全、高尿酸血症、動脈硬化症、脂肪肝の11疾患とし、「がん」は除く。

た行

・ 短期目標

データヘルス計画において、短期的な目標として設定しているメタボリックシンドローム・予備群の減少、高血圧の改善、脂質異常症の減少、糖尿病有病者の増加の抑制のこと。

・ 中長期目標

データヘルス計画において、中長期的な目標として設定している脳血管疾患死亡率の減少、虚血性心疾患死亡率の減少、糖尿病性腎症による新規透析導入患者数の減少のこと。

・ 同規模保険者

人口規模が同じ程度の市町村をいう。本市の場合、人口1万人以上5万人未満の259市町が該当する。

・糖尿病性腎症

糖尿病の合併症の一つで、腎臓の機能に障害が起こっている状態をいう。

・特定健康診査（特定健診）

医療保険者（国保・被用者保険）が、40～74歳の加入者（被保険者・被扶養者）を対象として実施する、メタボリックシンドロームに着目した検査項目での健康診査をいう。

・特定保健指導

医療保険者（国保・被用者保険）が、特定健診の結果により健康の保持に努める必要がある者に対して実施する保健指導をいう。

な行

・75g糖負荷試験（OGTT）

75gのブドウ糖を溶かした水を飲み、飲む前と飲んだ後で血糖値やインスリン分泌量がどのように変動するかを採血により調べ、インスリン反応やインスリン抵抗性をみる検査。

・尿蛋白定性検査

採取した一定量の尿に試験紙などを入れ、試験紙の変色度合いによって蛋白の有無を調べる検査。検査結果が（－）の場合は尿蛋白陰性、（±）以上になると蛋白陽性となる。（＋）が多くなるほど蛋白の量が多くなることを示す。

・尿蛋白定量検査

尿蛋白排泄量を測定する検査。

・脳血管疾患

一般に脳卒中とも言われる。脳の血管が破れるか詰まるかして、脳に血液が届かなくなり、脳の神経細胞が障害される病気。原因によって①脳梗塞（脳の血管が詰まる）、②脳出血（血管が破れる）、③くも膜下出血（動脈瘤が破れる）、④一過性脳虚血発作（TIA）（脳梗塞の症状が短時間で消失する）の4つに分類される。

は行

・バイオマーカー

人の身体の状態を客観的に測定し評価するための指数。

・ プラーク

血液中の余った LDL コレステロールは酸化して血管壁に入ると、血管壁内の白血球の一種であるマクロファージは酸化した LDL コレステロールを食べ続けることで、泡沫細胞（泡のようにふくれ上がった細胞）となり溜まっていき、血管の内側に盛り上がった粥状の塊ができる。この塊をプラークという。プラークは血管の内腔を狭くするだけでなく、悪化すると崩れて血栓の原因になる。こうした現象が大動脈・脳動脈・心臓の冠動脈などに起こると命にかかわる脳卒中や心筋梗塞になる。

ま行

・ 慢性腎不全

ひとつの病気の名称ではなく、腎臓の働きが徐々に低下していく様々な腎臓病の総称。

・ 脈波伝播速度 (PWV)

動脈の硬化の程度を調べる検査。心臓の拍動が動脈を経て手足に伝わる速度を調べる。動脈の壁が硬くなるほど速度が速くなる。

・ メタボリックシンドローム (厚生労働省 標準的な健診・保健指導プログラムによる基準)

肥満（内臓脂肪型肥満）に加え、脂質代謝異常、耐糖能異常、高血圧など、動脈硬化の危険因子が集積する患者は、たとえそれぞれが軽度でも危険因子の数が増えるごとに加速度的に血管疾患を発症する確率が上昇していく。

＜メタボ該当者と予備群の判定基準＞

ステップ1 内臓脂肪蓄積のリスク判定		
腹囲	男性85cm以上、女性90cm以上	→(1)
腹囲	(1)以外 かつ BMI \geq 25kg/m ²	→(2)

ステップ2 追加リスクの数の判定		
検査結果及び質問票より追加リスクをカウントする		
①血糖高値	a 空腹時血糖	100mg/dl以上
	b HbA1c	5.6%以上
	c 薬剤治療を受けている	
②脂質異常	a 中性脂肪	150mg/dl以上
	b HDLコレステロール	40mg/dl未満
	c 薬剤治療を受けている	
③血圧高値	a 収縮期血圧	130mmHg以上
	b 拡張期血圧	85mmHg以上
	c 薬剤治療を受けている	
④質問票	喫煙歴あり	

ステップ3	
(1)の場合	①～④のリスクのうち追加リスクが2以上の対象者がはメタボ該当者 1以上の対象者はメタボ予備群
(2)の場合	①～④のリスクのうち追加リスクが3以上の対象者はメタボ該当者 2以上の対象者はメタボ予備群

その他

・ e-GFR (イージーエフアール)

腎臓における血液の濾過量のこと。血清クレアチニン (Cr) と年齢、性別より日本人の GFR 推算式を用いて推算 GFR (eGFR) として評価する。

・ HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)

血液中のヘモグロビンがブドウ糖と結合した状態をいう。採血時から過去 1.2 ヶ月間の平均血糖値を反映し、糖尿病の診断や、糖尿病患者の血糖コントロール状態の指標に用いられる。

・ PDCA サイクル

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan (計画) → Do (行動) → Check (評価) → Act (改善) の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。